



茨城県景気ウォッチャー調査結果の再活用 ～いばらき統計データマイニング～

地域別D Iの累積による長期時系列分析

茨城県企画部統計課 企画分析グループ 中山 亮一

1 はじめに

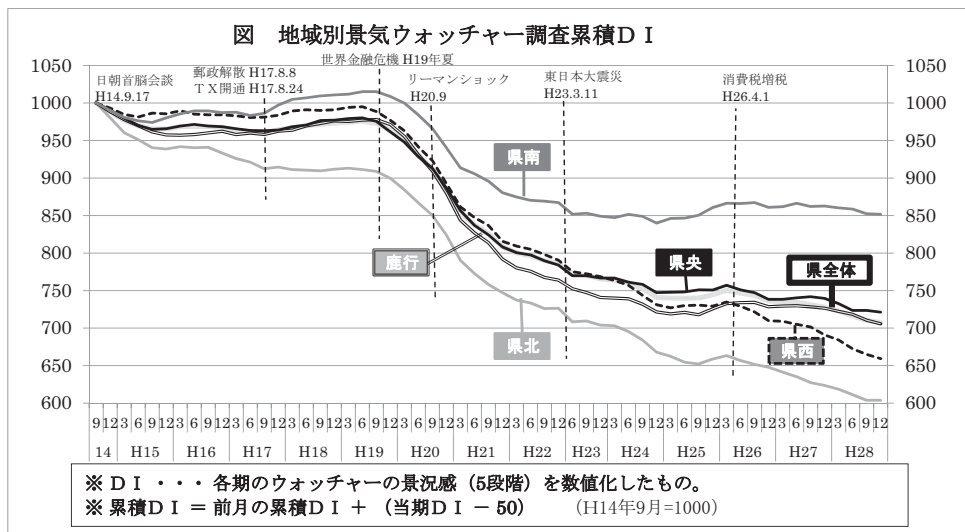
県統計課では平成14年9月から年4回、四半期ごとに茨城県景気ウォッチャー調査を実施しています。本調査は、県内を5地域に分け、様々な業種の経済活動に従事する方々（景気ウォッチャー）から景気の現状や先行きについて、5段階評価でご回答いただきD Iとして点数化するとともに、頂いたコメントを分析しています。景気ウォッチャー調査は経済活動を行う方々の心理（景況感）を地域別に表現することができる重要な統計調査です。（調査の概要については、当課ホームページをご覧ください。）

そこで、この景気ウォッチャー調査の結果を長期時系列で分析し、県内各地域の状況を表してみることにしました。

2 累積D I（現状判断）の作成

調査開始以降、四半期ごとに算出したD I（現状判断D I）を利用して、累積D Iを作成してみたところ、以下のグラフのようになりました。累積D Iは、「当期D Iと50との差」を前期D Iに順次足していきます。

便宜的に調査開始の平成14年9月期を1,000としました。



3 累積D I（現状判断）の推移からみた各地域の状況

図中の太い実線は県全体の累積D Iです。平成19年央まではほぼ横ばいでしたが、その後、サブプライムローン問題が顕在化した平成19年夏以降、全ての地域で下降しました。

地域別に見ると、**県北**の下降が特に目立ちます。

一方、**県南**では、つくばエクスプレスが開業した直後の上昇が際立ち、平成23年3月の東日本大震災以降、他の地域が下降する中、唯一下げ渋っています。ちなみに、つくばエクスプレス沿線の3市（つくば市、守谷市、つくばみらい市）は、県内でも人口が増加している数少ない地域の一つです。

県東は、本県経済の中心のためか、県全体の動きに近くなっています。

鹿行は、農業が盛んな銚田・行方、工業地帯の鹿島地域があり、こちらも県全体の動きに近くなっています。

県西は、消費税増税後の下降が目立ち、平成27年9月関東・東北豪雨以降はさらに加速しているようにも見えます。

大きく下降している**県北**と**県西**は、ともに人口減少が目立つ地域でもあります。

以上のように、累積D Iを作成することによって、景気ウォッチャーの心理が地域間で差があることが明らかになりました。過去の統計調査の結果を再活用して分析することにより、本県の状況を新しい方法で表すことができました。